

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成	19年	7月	28日
事業所名	グループホーム	はるすのお家いわから		
ユニット名	1単位「ほがらか」			
事業所番号	2374700249			
記入者名	職名	管理者	氏名	栗林美菜子
連絡先電話番号	0587-37-4881			

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		実践する姿を見てもらい、理解につなげていきたい
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		職員だけではなく、入居者も交えて挨拶会話し交流を深めていきたい
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		情報をいただいた時は積極的に参加し、催し物だけではなく清掃等地域に貢献できるようにしたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>		<p>どのようなことをきっかけにお役に立てるか、運 営推進会議を通して意見をいただき、無理のない 範囲で活動したい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>前回、アドバイスを頂いた部分全てが改善でき ていないため、今後も努力していきたい</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>		<p>発言しやすい雰囲気作りに今後も努め、頂いた意 見についてはできる限り答えていきたい</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>必要性のある方については、市町村と連携図り支 援していくが、学ぶ機会はない。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>普段から認知症について学び、一人の人として接 するよう心掛けているため虐待と結びつきにく くなっている。万一心を傷つけると思われる言動が あった場合、早急に改めるよう話し合いや口頭で 注意し、再発防止に努めている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常生活の中で、1対1で話せる空間や時間があり、話しやすい職員やホーム長に不満・意見等発信して頂いている。その内容については、ミーティングで取り上げたり、個別に注意したりという対応をとっている。又、2ヶ月に1回介護相談員の訪問もあり、話された内容についての報告もいただいている</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>暮らしぶりや健康状態の変化については随時電話連絡したり、毎月利用料の請求書・出納帳と共に、お手紙を入れて報告している。又、面会時にもできる限り状況報告するように努めている</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱は玄関に設置してあるが、入っていた事はない。管理者・計画作成は面会時に家族に会った時は出来るだけお話をする機会を設け、その場で意見や疑問・不満を聞き、その都度対応している。内容によってはミーティングに取り上げスタッフにも改善を促している</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ミーティングで意見を求めたり、大勢の前では意見できないスタッフに対しては個別に話せる時間を設けるなどしている。半年に1回は、個人面談を必ず実施している。</p>	<p>スタッフの意見箱を設置してみる</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要以上の職員確保が出来るとは限らないが、できる限りより良い状況になるよう話し合い調整に努めている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5.人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	外部の研修参加時に交流がある程度。相互訪問の機会はない	社内の事業所間での行き来を、行事等を通して行って行きたい
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	困っていることはないか等声掛けがなされ希望時個別に話す機会を設けている	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	職員それぞれの個性や良いところを認め、伸ばす声掛けに努めている	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>計画作成担当者が面談時、本人の思い・希望・好み・不安に思うことなど、まず本人の言葉を最優先に聴き受容共感するよう努めている</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>ホーム長・計画作成担当で電話対応・面談等をし、利用までの不安除去に努めている</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>面談時、聞き取りを慎重に行い、出来るだけ希望に沿えるよう、ホーム長・計画作成・家族・本人で話し合っている。福祉用具使用なども提案している</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居後はホームの雰囲気に馴染んでいただけるようなプランを作成。個人差があるため慎重に対応している。本人の思いや家族の意向にも耳を傾ける努力をしている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>生活にまつわる作業や行事、外出を通じ、喜怒哀楽を共にし、介護される一方で誰かの役に立っていると実感できる「持ちつ持たれつ」の関係を築いている。昔の出来事や礼儀等学べる機会もある。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族には病院受診などで協力頂いており、一方的な立場には置かれていない。面会時に身体面・生活全般の状況を報告し相談し合い、利用者を家族とスタッフで支えていく関係を築いている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の思いや希望があれば、家族にも伝え、家族の思いや希望を本人に伝える等職員がクッションとなり良い関係が持続できるよう調整している		夏祭りでは家族も招待し共に時間を過ごす機会を作っている
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全ての関係が途切れないようにするのは難しいが本人が希望することであれば家族の了解を得た上で支援に努めている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人自分の世界があり、利用者同士の関わりが難しい場合もある。物事の見解度もさまざまな中で関わり合い、支えあえるようミーティングでも議題に上げ対応に努めている		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後にホームへ出向いてくることは少ないが（利用者は特に重度化や死去された方もあり）関係を急に断ち切ることはないようにしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>面談時の聞き取りや、入居後も本人と関わることによって把握に努めている。困難な場合は、本人にとって良いと思われることを試し、喜んでい・困惑している等、表情言動等により見極めるようにしている</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>面談時の聞き取りや他事業所利用していた場合、介護サマリーの参照、電話等で問い合わせる等情報収集を行い把握に努めている</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>介護記録・看護記録の参照の他、計画作成担当者も積極的に現場に入り暮らしの現状把握に努めている。ミーティングやケアプラン見直し等、話し合いや情報交換も行われている</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者とフロア長でケースカンファレンスを行い意見交換しながら介護計画を作成している。ミーティングやケアプラン見直し時など話し合いや情報交換をスタッフ参加型で行っている</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>期間ごとにケアプラン見直しは行われている。プランの変更も現状にあってないものは、話し合い変更様子見るなど決めている</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護記録へその都度記入。気づきや工夫・注意を要する点に対しては気づきシートを設置し、気軽に職員が情報を発信できるようにしている。情報を共有し実践や介護計画の見直しに活用している</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>本人や家族の要望はできる限り沿うことのできるよう話し合いは持っているが、あくまでグループホーム内の枠内で対応している</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>傾聴ボランティアの訪問・実習受け入れや、近所の子供達が気軽に遊びに来ている</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>必要に応じて対応していく</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>必要があれば連絡を取り合っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。身体の変化は家族・医師に伝わるよう努め適切な医療が受けられるよう支援している		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症外来の受診を進めたり、必要があれば日頃の状態を知る看護師や計画作成担当者も同行し、より確かな診断や治療が受けられるよう支援している		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在働いている看護師は非常勤の為、全体の把握が難しい部分はあるが、ささいな体調・皮膚の状態変化など気軽に相談し対応方法を聞くことができる環境にある		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	責任者が病院へ度々出向き、病状の把握をすると共に利用者とのコミュニケーションをとり「戻ってくるのを皆が待ってますよ」と居場所はきちんとあるというメッセージを伝え精神的安定や病気改善への意欲向上を図っている。主治医や看護師と連絡を取り合っている		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や、終末をどういう形で迎えたいか、本人・家族と共に話し合いを重ねている。早い段階での特養・老健など申し込みも進めている		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族との面談を重ね「できる事出来ない事」やリスクを明確にし、緊急時どのように対応するかなど日頃から話をしている（緊急時の搬送先等）		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>介護サマリーや他の文書、口頭で情報を伝えている。身体的・精神的な症状も細かに伝えている。 (主に計画作成担当者が行う)</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉掛けや対応には充分気を配っている。個人情報については、不特定多数の出は入りがある場所には置かないよう保管場所を決めている</p>	<p>プライバシーを損ねると思われる言葉掛けに対しては、ミーティングや個人的に適切ではないことを伝えている</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>利用者が気兼ねなく希望の表出ができ、自己決定できる機会をつくるよう努めている</p>	<p>外出先でメニューを決める・断るという選択ができる環境づくりに努めていきたい</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員側の決まりや都合を優先するケースも多々あるものの、基本的にはその人ペースを大切にし、希望に沿った過ごし方を尊重して行くべきという考えのもとで介護にあたっている</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>希望があれば、化粧品や洋服等の買い物を支援、高額なものであれば家族に相談している。理美容も行きつけがあり、家族協力が得られる状態であれば行くことも可能。2ヶ月に1回移動美容室がホームに訪し、おしゃれの支援をしている。気染め・パーマ等にも対応できる</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全員の好みに対応することは難しいが、マンネリにならないメニュー作りには気をつけている。買い物・準備・盛り付けから片づけまで必ず利用者の関わりが出来る様にしている		
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望があれば対応。買い物支援や食品の管理提供を行っている		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握の為チェック表を使用し、必要に応じてトイレへの声掛け誘導を行い排泄の失敗防止に努めている。不必要なパット・オムツの使用が無いよう心掛けている		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴が楽しめることが出来るよう毎日入れるようにした。入浴準備の段階から職員が関わり余裕のある入浴援助ができるよう業務の変更をした		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠や休息の自由は確保している。職員の都合で寝かせることはしてない。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる限り、その人に合った役割や楽しみ気晴らしができるよう、支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員一人一人がお金を持つことの大切さを理解し、支払うことの出来る利用者に支援できるようケアプランにも取り入れている。ある利用者は、昔使っていた財布を用い支援している		支払うことができる機会を増やし、買い物で品定めしたり迷う等の楽しみも支援していきたい
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人一人の希望に沿うことは難しいが、日頃から関わることでその人の希望や好みをリサーチしている。個別または少人数での外出を実行している		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一人一人の希望に沿うことは難しいが、毎月イベントや季節の花見等楽しめるような企画は立てている		行ってみたい場所を伺い、可能なものから適うよう努力していきたい
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば支援している。電話の取次ぎや、年賀状・手紙のやり取り程度は行っている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問でき、本人とゆっくり話ができるよう居室での対話ができるよう勧めている。職員も明るい対応に心掛けている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	止むお得ず拘束しなければならない場合（安静を保たなければならない等）本人や家族に説明し了解を得た上で必要最小限にとどめている。経過記録も家族に公表し、拘束期間が最小限になるよう対応している。目に見えない拘束にも配慮している（精神的・心理的拘束）		転倒するより抑制・離脱するより施錠等という考えが安易に出ないように、職員・家族への対話に今後も努めていく

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はリビングに職員が配置できない場合に限り、事故（離設など）防止のため施錠することがある。施錠は必要最小限になるよう努めている。通常は外へ通じる扉・玄関は開放している		
67 利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホーム前の道路は車の行き来が多い為、常に所在確認し安全に配慮している。さりげない確認に心がけ他の利用者が不安にならない様にしている		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人の出来る力を見極め、何でも取り上げてしまわないようにしている。気付き・ひやりはっとななどの情報を基に、危険を防ぐ方法をミーティングで話し合っている		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故の起こりうる事例ごとにミーティングで話し合い、対応策を考えている。看護師とも連携し知識を分け合って事故防止に取り組んでいる		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変・事故（転倒・離設など）物損等の対応手順（フローチャート）を作成、分かるところに示し、連絡・相談するシステムにはなっているが全ての職員が応急手当や初期対応ができるまでには至っていない。		日常で考えられる事故・急変に関しては最低限の応急手当が出来るよう勉強会などの機会をつくりたい
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災報知機を作動しての防災訓練は年1～2回実施しているが、地域住民の協力働きかけは充分とはいえない		非常時のための食料の備蓄を早急に検討する

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		起床時に水分を促す・朝食後のトイレ促し等により、下剤に頼らない排便のリズム作りに努めたい
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		計画作成担当者によく話し合い、課題にあげている。無理なく行えるようケア内容に組み込んでいきたい
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	保健所・病院・テレビ報道等から情報を収集し、予防や対応を実行している。職員も出退勤時手洗いうがいを励行し「菌を持ち込まない・持ち帰らない」よう努めている		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所や調理器具の洗浄・消毒を行っている。職員で話し合い、確実に効率の良い方法を考えている。食材は近隣のスーパーで鮮度の良い食材を週2回仕入れ賞味期限を確認しながら使用し、作った食事は必ず再加熱し提供している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りに植物のプランターやメダカなどの水槽を設置し、定期的に植え込みの剪定を業者に依頼。管理者や職員、時には利用者も交え草取りをする等し、清潔感にも気をつけている。低い塀を使用し、圧迫感の無い様にしている		手作り風の看板(表札のようなもの)を設置し何を目的とした場所なのか分かりやすくし、親しみを持ってもらいたい
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は無機質な場所にならないよう手作りのもの、写真・花等を飾り生活感・季節感を取り入れている。浴室やトイレも安心して使用できるよう生活からかけ離れた物品は置かないようにしている		皆で手作りしたものや利用者の出身地にまつわるもの等飾り、懐かしさや温かみのある空間作りをしたい
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には皆で集えるソファから一人になれる椅子も設置。ほっとできる死角もあつたほうが良いと考えている。別室(地域交流室)への行き来も自由に出来る		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人の使い慣れたものや、好みのものでできる限り持ち込んで頂いている。写真や飾り・花等自由に飾ってもらっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は朝や清掃時など必要に応じて行っている。臭いには特に気を使い、トイレには消臭剤の設置や臭いの元にならぬようパット・オムツの処理や排泄ケアに取り組んでいる。温度の感じ方には個人差があるため、利用者の状況を見て窓の開閉・冷暖房の使用などで調節配慮している		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な利用者が、安心して移動できるよう手摺を設置、車椅子の利用者にはスロープも設置してある。段差には注意が行くような目に付く色つきテープを使用している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の得意なことが出来る環境づくりや安心できるものを提供し混乱や失敗を最小限にする努力はしている。失敗に対してはさり気ないフォローに心掛けている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周やベランダは花や作物を作り、生活を楽しんだり活動できるようにしている。日光浴や夕涼みが出来るよう椅子も設置している		職員に余裕があれば、中庭や玄関先のスペースを利用しランチや花火なども楽しみたい

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

その人の思いやベースを大切にしたら暮らしが出来るよう、利用者に寄り添い生活を一緒に作り上げている。
玄関は必要以上に施錠せず、開放的な環境づくりに努めている。
外出支援を大切と考え、喫茶店・買い物など積極的に出かけしている。
同じ屋根の下に住むもの同士の交流も大切と考え、月に1回寄合いを行っている。